

第5学年「算数」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 簡単な文章問題や基本的な問題については概ね理解できた。
 - 既習事項を活用して問題に取り組む姿が見られるようになってきた。
 - データの活用については概ね定着した。
- 課題**
- ▼ 小数のかけ算、わり算の計算ミスがある。
 - ▼ 図形に関する理解が十分でなく作図が苦手な児童もいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて数の性質、計算の仕方などを考察する。
- ◇ 図形を構成する要素や図形間関係に着目しながら、図形の構成の仕方やその性質を論理的に説明する。
- ◇ 伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見出して二つの数量の関係を表や式を用いて考察する。
- ◇ 統計の問題解決の過程を重視しながら、データの特徴や傾向に着目し、解決に適した表やグラフを選択して結論を考察する。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 既習事項が活かせるような授業づくりをしたり、工夫された考えの書かれた児童のノートを紹介したりする。

言語活動の工夫

- ノートに自分の考えを整理し、それを使って考えを説明し合う場を多く設ける。

ICT活用の工夫

- デジタル教科書を使用したり、問題への手順を示したりして児童の理解を促す。
- 実物投影機で写しながら作図の手順を確認し定着を図る。

課題解決力育成の工夫

- 自力解決の時間を多く取り、ノートに自分の考えをまとめさせる。
- 少人数グループでノートに示しながら、自分の考えを発表し合う機会を設ける。

達成目標

- 小数の計算の意味について理解し、正確にできる。
- 図形の名称や特徴を正しく理解し、作図できる。
- 問題解決するために既習事項を活用し、絵や図や数直線に表しながら立式できる。